

第 1 回 入 試 問 題

国 語

水戸英宏中学校

□ 1 次の問題に答えなさい。

(1) 次の〓線にあてはまる漢字と同じ漢字が含まれているものを、下から一つ選び、記号で答えなさい。

- ・選挙でトウヒョウする。
- ア 議員が議会でトウベンする。
- イ 夕方になってガイトウがともる。
- ウ 初めて会った人と意気トウゴウする。
- エ 少子化についてトウロンする。

(2) 「羽」と同じ成り立ちの漢字を、次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 算
- イ 昼
- ウ 弓
- エ 腸

(3) 「守」の部首の持つ意味を、次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 固
- イ 家
- ウ 土
- エ 主

(4) 「兆」を楷書で書いた時、次の↓の部分は何画目になりますか。あとから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 二画目
- イ 四画目
- ウ 五画目
- エ 六画目

(5) 「公私」と同じ構成の熟語を、次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 東西
- イ 研究
- ウ 多数
- エ 着陸

(6) 漢字が正しく使われている四字熟語を、次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 音心不通
- イ 平身低頭
- ウ 完全無血
- エ 一等兩断

(7) 次の文の□にからだの一部を表す漢字一字を書きなさい。

・他人の問題にやたらと□をつっこむ態度には感心しない。

(8) 次の短歌に用いられている表現技法を、あとから一つ選び、記号で答えなさい。

アカシアの葉にわづかなる黄が見ゆれ秋すでに来る街のほとりに

(金子薫園)

(9) 次の文の〓線の語が直接かかる言葉を、文中のア——エ——から一つ選び、記号で答えなさい。

・とつさに^ア右手を^イかくしたが^ウけがを^エ見られた。

(10) 線の敬語であやまった使い方をしているものを、次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア あなたがおっしゃることはよくわかります。
- イ 集合場所には電車でいらつしやいますか。
- ウ すぐに責任者がまいります。
- エ どうぞ自由に拝見してください。

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

曲は全部で三曲だった。

①演奏を終えて、藤本さんとおばさんが並んでおじぎをすると、十人ほどいたお客さんから拍手がわいた。亜樹は最初から最後までまばたきするのもおしいと思うくらいに、藤本さんを見つめつづけていた。目が②痛いと思いながら時計を確認すると、演奏時間は二十分ほどだったけれど、亜樹には本当にあっていうまだった。あまりに集中して見つめつづけたので、まるで自分が演奏したかのようにつかれていた。

ぼうぜんとしてみると、藤本さんが亜樹のほうにもどってきた。その顔はもう、教室で見るいつもの藤本さんにもどっている。

「すごい、夢じゃないよねえ」

亜樹は藤本さんをながめながら、¹両手で頬をぺちぺちたたいてみせた。藤本さんは、亜樹のむかひの席にすわると、水をゆっくり飲んで自分を落ちつけてるみたいだった。

「緊張した？」

水を飲み終えた藤本さんの顔をのぞきこむようにしてきく。

「うん……亜樹が見てるから、緊張した」

藤本さんが、遠慮がちにこたえる。

「わたしも緊張してた。ほら、汗かいてる」

亜樹がさしだしたてのひらを、藤本さんがそつと指でなでる。亜樹が、ねっ？ という顔をしてみせると、藤本さんは目を大きく見開いて ^A 顔をしてみせた。

「夢があるって、素敵ねえ」

そんなふたりのそばを、演奏をきいてたお客さんがレジをすませて帰っていく。

「今からサイン、もらっとかなきゃな」

そんなふうについて藤本さんにウィンクするおじいさんまでいた。

「バイオリンストになるんだ……」

藤本さんがバイオリンを弾くことさえ知らなかった亜樹は、ただただ感心するばかりだった。

ちゃんとした夢があるんだ。③将来のこと、ちゃんと考えてるんだ。おとなしいだけの子じゃなかったんだ。こんな ² 必殺技をかくし持ってたんだ。すごいな。いいな。うらやましいな……。だけど、

「でも ³ 夢があるっていわれるのが、一番イヤ」

藤本さんの声は意外にも暗かった。

「うちは、親も親戚もみんな音楽やってて、だから小さいときから自然にバイオリン始めて、高校も音楽科のあるところをうけるんだけど……でも、それってたまたまなんだよね」

そういつて、自信なさげにうつむいている。

「みんながなんとなく普通科の高校を受験するのと同じで、とりあえずいけそうだからいつてみようかなっていうくらいで、本当にこのままずっとバイオリンを弾きつづけていくのかなんて、わかんないよ」

藤本さんは、バイオリンを弾いているときの凛々しい感じとも、教室でひとり読書をしているしずかな感じともちがう一面を、亜樹に見せていた。

「でもね。わたし、一年ときにいじめられてたことがあって、そのときはバイオリンが自分の支えだったんだ」

それもまた初耳だった。

「運動会のクラス対抗リレーで転んじやって、それがきっかけでつぎの日から女子たちにひたすら無視されちゃう ⁴ 程度のものだっただけど……」

亜樹はなんて言葉をかけたらいいかわからなかった。イジメがその程度のことではまってしまうことも、始まってしまったらどうにもならないことも知ってるから。

もちろん、そのクラスメイトたちをひどいものにすることもできる。だけど、イジメはどんなに気をつけていても、起るときには起こってしまう。それはちゃんと歩道を歩いていても、交通事故にあっってしまうようなもので、さけようがない。自分はたまたまあっていないだけで、いつふりかかってくるかわからないのがイジメなのだ。

「そのときは、教室にいるときは本を読んで物語の世界に没頭して、家に帰るとくるったようにバイオリンを弾きまくったよ。弾いてるときは、曲が持つてる物語の中ににげられるから……」

⁴ そのかわりに亜樹は、必死で藤本さんの言葉に耳をかたむけた。ひとこともききのがさないように集中した。藤本さんをきちんと知りたいから。

「だから夢があるっていうより、バイオリンににげてきたって感じなんだよ。こうして人前で弾けば、ほめてもらえて優越感も得られて、わたしはただのいじめられっこじゃないって自分を ⁵ 説得できたし……」

藤本さんは話しながら、どんどんうつむいてしまう。

「そっか……」

亜樹はそんな藤本さんの告白をききながら、自然と「卓球」のことを思いだしていた。

藤本さんにとっての「バイオリン」と自分にとっての「卓球」が似ている気がしたから。

「わたしも……卓球ににげてたのかな」

亜樹はテーブルにひじをつけて、自分のあごをささえた。

「お姉ちゃんが中学でバスケットを始めたら、人がかわったように格好よくなっちゃって、わたしも中学にはいったらお姉ちゃんみたいに夢中になれるものを見つけて、かわりたいって思ったんだよね」

亜樹の言葉に、藤本さんがゆっくりと顔をあげた。

「卓球になんとか憧れがあったし、実際夢中になって一生懸命に練習したけど、ちつとも格好よくなかならなくて……。だけどお姉ちゃんみたいに県大会ですんだら、なにかかわるんじゃないかって期待して、でも結局実現しなくて……。でも今思えば、そうやって夢が実現したからって、人の性格なんてかわらないよね」

それは「卓球」と「バイオリン」を重ねてみせることによって、藤本さんをはげますような言葉がでてこないかと期待して話したはずだった。

「夢が叶ったからって、別人になれるわけじゃないもんね」

でも話しているうちに、気がついていたら思ってもみなかった言葉がとびだしていた。亜樹は自分の言葉にハツとした。

「でも、亜樹は今のままで十分だと思う」

すると藤本さんがきっぱりといった。

「かわる必要なんて、全然ないと思う。ただ、もっと素敵になりたいって気持ちはわかるし、卓球で輝きたかった気持ちもわかる」

亜樹は小さくうなずいた。

「でもやっぱり夢が叶うのと、その人が素敵な人かどうかってべつなんだよね」

その言葉に亜樹はしびれた。つながったと思った。同じふうに考えてる。同じように感じている。

「わたしが演奏してみせれば、お客さんはわたしのことをすごいってほめてくれるけど、でもそれはバイオリンを弾くわたしがすごいだけで、バイオリンを弾かなくなったら、わたし自身はすぐもなんともないんだよ」

亜樹は顔をあげて大きくうなずいた。

そうなのだ。あの夏の大会で、試合に勝ったとしても、きつと自分にはわからなかった。県大会にすんだからって、別人にはなれない。素敵になれるわけでも、輝いてる人になれるわけでもない。

「わたしがバイオリンを弾かなくなったら、お客さんはかたんにはなれちゃうんだよ。今みたいに慕ってなんてくれないんだよ」

「でも、わたしははなれないよ」

つながったことに興奮して、亜樹はそれでもせずにつづけた。

「バイオリンがこんなに上手だって知ってすごいと思ったけど、わたしにとっては、それよりきょう、こうしてさそってくれたことのほ

うがうれしかったから。藤本さんがバイオリンを弾かなくなっても、わたしははなれないよ」

亜樹はまっすぐに藤本さんを見つめた。すると、藤本さんは姿勢を正して頭をさげた。

「ありがとうございます」

「いえいえ、こちらこそです」

亜樹も同じように頭をさげた。そしてふたりは顔をあげると一瞬見つめあって、そして同時にクッククッククツと笑いだした。それは自分たちのおかしなあいさつがおかしくて笑ったのだけれど、わかりあえたことがうれしくて、くすぐったくて、てれくさくて、ふたりはいつまでも笑うのをやめられなかった。

(草野たき『リボン』)

(1) ①——⑤——の漢字の読みがなをひらがなで書きなさい。

(2) 「両手で頬をぺちぺちたたいてみせた」とありますが、「わたし」は何のために頬をぺちぺちたたいたのですか。二十字以内で書きなさい。(句読点を含む。)

(3) 文章中の[A]にあてはまることばとして、もっとも適切と思われるものを、次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア がっかりした

イ のんびりした

ウ びっくりした

エ さっぱりした

(4) 必殺技²とありますが、藤本さんにとっての「必殺技」とはどういうことですか。十五字以内で書きなさい。(句読点を含む。)

(5) 夢があるっていわれるのが、一番イヤとありますが、藤本さんがこのように言う理由としてもっとも適切と思われるものを、次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 将来のことをちゃんと考えていない人に、簡単に感心してほしくないから。

イ たまたまバイオリンをやっているだけで、夢をもっているわけではないから。

ウ 音楽科を受験するのに有利なため、しかたなくバイオリンをやっているから。

エ 自分のバイオリンが本当に上手なのか、ほめられても自信が持てないから。

- (6) ⁴ そのかわりに とは、どういうことですか。それについて説明した次の文の にあてはまることばとして、もっとも適切と思われるものを、文章中から十七字でさがして書きぬきなさい。

藤本さんに何か言葉をかけたり、 かわりに。

- (7) ⁵ つながった とありますが、どういうことですか。文章中のことばを使って、三十字以内で書きなさい。(句読点を含む。)
- (8) ⁶ わかりあえたことがうれしくて とありますが、亜樹と藤本さんが「わかりあえたこと」の内容としてもっとも適切と思われるものを、次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア ふたりの夢が叶って素敵な人になっても、かわらずに友だちでいようということ。
イ ふたりともつと素敵になりたい、輝きたいという気持ちを持っているということ。
ウ いろんなことができるかに関係なく、ありのままの姿で友だちでいようということ。
エ もし夢が叶わなくても、別人になる方法をふたりでいっしょに考えようということ。

二

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

家は気候風土と長い生活の積み重ねのなかから生まれてきた文化の産物だから、土地と切り離して考えたのでは意味がない。ということとは、¹ ヨーロッパの家がどんなに立派でも、日本という風土のなかにそのまま移したのでは合わないし、和風の家がいかに美しくても、ヨーロッパに建てたのでは、住みにくいということである。日本は雨が多いから、家は屋根の大きいのが特徴で、すっぽりと笠をかむつたような形をしている。仏教伝来とともに^① レキシの始まった日本は、何事も中国の真似をしたが、² 土間で履き物のまま暮らす生活だけは取り入れなかった。地面から一段高いところに板を張り、そこで生活するようになった。そしてこの板の間を四方に^② ノぼして縁にした。縁とは家の「へり」の意味だが、そこには雨がかかるから、縁先に立てた柱を支えにして軒をかけ、さらにその先に濡れ縁をつくったのである。

軒は深いからなるべく軽くつくらねばならない。そこで小丸太や竹を使って重みを減らした。 A 家の形は中心部に畳を敷いた座敷があつて、そのまわりを縁側がとり^③ カコみ、さらにその先に庭と接触する濡れ縁があるというスタイルができあがったのである。中心の座敷は人間がすわる静かな場所で、縁側は通行するところ、屋外は活動の場ということであるから、家は中心部に向かうほど静、外に向かうほど動というように、中心から外に向かつて、 B から C へのぼかし^④ モヨウがつくられていることになる。

座敷と座敷との間の仕切りは軽いふすまだから、夏になってそれをはずすと、風は自由に通り抜ける。日本のように夏の蒸し暑い国ではこれが何よりで、畳の上をすべて吹き込む風は天然冷房の効用がある。高い^⑤ マドから入ってくる風ではその効果はない。伝統の和風住宅では、ふすまと障子をはずすと、何本もの柱で支えられた屋根だけが残る。この構造は通風を考えてできた生活の知恵である。「住まいは夏を旨とすべし」という兼好法師の有名な言葉があるが、風通しのよさからいえば、これ以上都合のよいつくり方はない。京都の町屋では間口が狭く、奥行きが深く、左右は隣家とくっついているから、風はいやおうなしに家を縦断する。 D 家全体が風のトンネルになるわけで、それに都合がよいように、部屋と部屋とのつながりには壁がない。このように³ 風の吹き抜けに合わせてつくられた家は、世界的にみてもその例が少ない。

伝統的な日本の家は、どの部屋を何の目的に使うというように固定していない。ただ八畳とか六畳とかいった四角な部屋をタテヨコに

つないで、そのまわりをぐるりと縁側でとり巻いたものであった。部屋の中での立ち居ふるまいは全く自由で、どこにすわろうとねそべろうと勝手次第である。

部屋ごとのプライバシーなどは全くないが、そういう住まい方が出来たのは、住む人同士の間にあるルールが存在していたからである。それから日本独特の礼法が生まれ、茶道や華道を芽生えさせる原因になった。部屋には定員がないが「ご順にお詰めをお願いします」という無言のルールで、混乱はおきなかった。

(小原二郎『日本人と木の文化』)

※1 土間⇨建物の中で、地面がそのまま床になっている部屋。

※2 へり⇨物のはし。物のふち。

※3 住まいは夏を旨とすべし⇨家は夏の住みやすさを優先しなさい。

※4 兼好法師⇨鎌倉時代末期から南北朝時代初期に活躍した歌人。

※5 八畳⇨畳八枚を敷いた広さの部屋。「畳」は、畳の一枚を基準とした広さの単位。

※6 融通無碍⇨考え方や行動にとらわれることなく、自由であるようす。

(1) ①——⑤——のカタカナを漢字で書きなさい。

(2) ヨーロッパの家がどんなに立派でも、日本という風土のなかにそのまま移したのでは合わないし、和風の家がいかに美しくても、ヨーロッパに建てたのでは、住みにくい。とありますが、筆者がこのように述べる理由を説明した一文を文章中からさがして、はじめの五字を書きぬきなさい。

(3) 土間で履き物のまま暮らす生活だけは取り入れなかった。とありますが、その理由を文章中から九字でさがして書きぬきなさい。

(4) 文章中の[A]と[D]に共通してあてはまることばとして、もっとも適切と思われるものを、次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア なぜなら イ つまり ウ しかし エ しかも

(5) 文章中の[B]と[C]にあてはまることばとして、もっとも適切と思われるものを、文章中からそれぞれ漢字一字でさがして書きぬきなさい。

(6) 風の吹き抜けに合わせてつくられた家。とありますが、このような家のようすをたとえたことばを、文章中から六字でさがして書きぬきなさい。

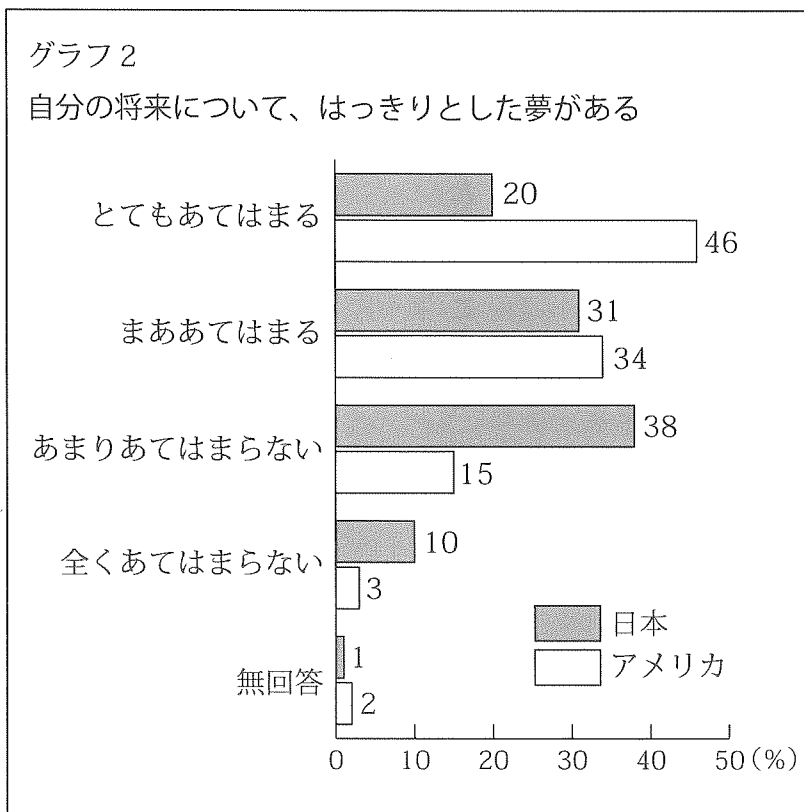
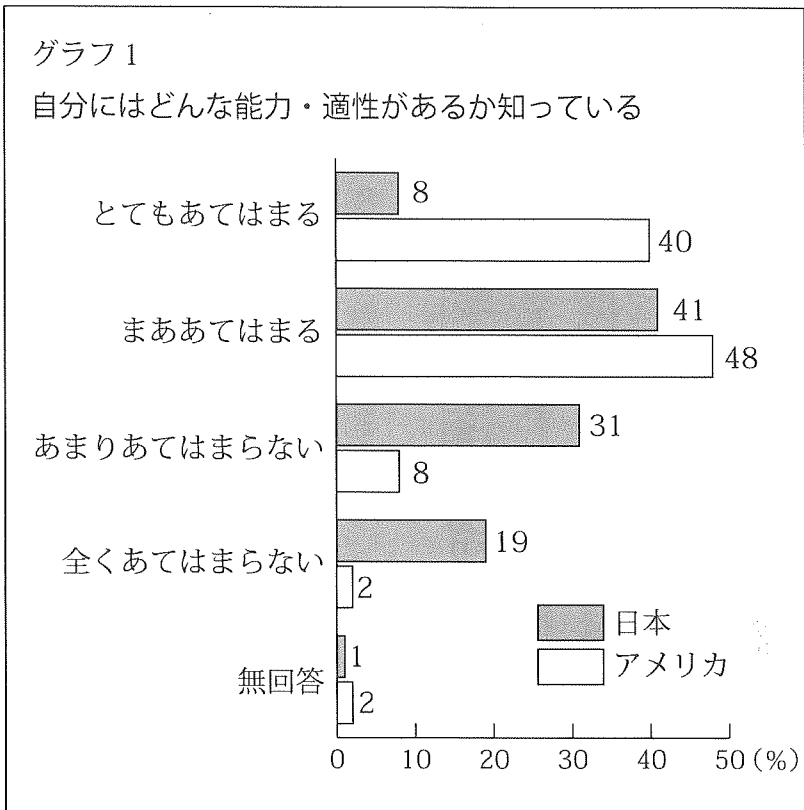
(7) 融通無碍に対応する柔らかい住まい方。とありますが、どのような住まい方ですか。文章中のことばを使って、四十字以内で書きなさい。(句読点を含む。)

四

Aさんのクラスでは、グラフを見ながら「将来の目標について」というテーマで話し合っています。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

〔話し合い〕

司会 今日は「将来の目標について」というテーマで話し合います。まず、次の二つのグラフを見てください。これらのグラフは、日本とアメリカの中学生に対するアンケートの調査結果です。どんなことに気づきますか？



Aさん 日本の中学生は、アメリカの中学生に比べて、自分の能力や適性を知らないということがわかります。「とてもあてはまる」と「まああてはまる」の合計を比べると、日本が約五割なのに対し、アメリカは約A割もいるからです。

Bさん 将来についても、日本よりアメリカの中学生のほうがはつきり夢をもっているようです。Aさんと同じように比べてみると、

Bです。

司会 AさんとBさんがグラフから読み取ったことをもとに、考えたことを自由に発表してください。

Cさん 自分が何をできるのか、何に向いているのかがよくわからないから、将来の夢が具体的にえがけないのではないのでしょうか。日本の中学生は、もっとCようにしたいと思います。そうすれば、将来の夢もはつきりしてくるはずです。

Dさん 私はDさんとはちがう意見です。自分に何ができるかよりも、自分が何をしたいかを優先させるべきだと思います。やりたいことと、つまり将来の夢を決めて行動する中で、能力や適性も明らかになっていくと思うのです。

司会 CさんとDさんから、対照的な意見が出ました。「能力・適性」を知るのが先か、「将来の夢」を定めるのが先か、みなさんはどう考えますか？

(1) 〔話し合い〕中のAにあてはまる漢数字一字を書きなさい。

(2) 〔話し合い〕中のBにあてはまることばを二十字以内で書きなさい。(句読点を含む。)

(3) 〔話し合い〕中のCにあてはまることばを十五字以内で書きなさい。(句読点を含む。)

(4) あなたは「能力・適性」を知ることと、「将来の夢」を定めることのどちらが先だと思いますか。次の条件に従って、理由を含めて百字以上百二十字以内で書きなさい。

〔条件〕

- ① 原稿用紙の正しい使い方に従うこと。
- ② 作文は二段落構成とすること。
- ③ 一段落目には、「能力・適性」を知ることと、「将来の夢」を定めることのどちらが先だと思うかを書くこと。
- ④ 二段落目には、あなたがどのように考える理由を書くこと。

解答を書き直すときの注意

解答を書き直すときは、例のようにつづくわえたり、けずったりしてもかまいません。ただし、字数については書き直した文字で数えます。

〔例〕

まのう、きれいな夕やけを見た。

受 験 番 号	氏 名
---------	-----

(7)	(5)	(3)	(2)	(1)
				①
	(6)	(4)		②
				い
(8)				③
				④
				⑤

(7)		(5)	(2)	(1)
		B		①
		C		②
			(3)	
		(6)		③
				④
				⑤
			(4)	

[illegible]

[illegible]